

【小学生の部】

◎日本動物福祉協会一等賞 三浦 かりん(みうら かりん)

「飼わない優しさ」

「人里離れたところにある動物が殺される場所」

私は、保健所にそんなイメージを持っていて、近づかないで済むなら近づきたくないと思っていた。でも、旭川の街中に動物愛護センターあにまあるという場所があることを知った。ホームページがとてもかわいらしくて、もらわれていった動物たちの里親からの写真付きの手紙ものっている。そんな場所ならぜひ見てみたいと母にお願いをして連れて行ってもらった。動物愛護センターは保健所の業務のうち動物に関わる業務をするところだ。

あにまあるは、窓が大きくて明るく、日が差し込む施設。入り口にはもらわれていった動物たちの数年後の幸せそうな写真がたくさん飾ってあった。動物達が保護されている部屋には、ケージがたくさん積んであった。そこには首にカラーをつけた11匹の猫たち。犬がいることもあるが、その日は猫しかいなかった。

保護された日がプレートに書いてあるが、どの子も新しく一番古い子でもその月に入ってきたばかり。傷が治りきっていないから譲渡できないだけで、猫は譲渡可能になるとみんなもらわれていくと言う。「なんだ。殺処分は昔の話でもう処分しないことになったのだ。」と私は安心した。しかし、係の人の話ではそういうことではなかった。

この地域では保護される動物が少ないから収容できる頭数を超えていない。だから殺処分しない。でも多頭飼育崩壊などが起きた時は収容数が多すぎて殺処分せざるを得なかったという。

また収容限度を超えなくても自治体によっては殺処分するところもあり、動物たちの命は市町村によって、変わってくるそうだ。

私は動物たちに申し訳ない気持ちになった。動物たちは飼い主を選べない。この施設に来る動物たちの多くが飼えなくなって連れてこられた動物達だ。私は、迷い動物ばかりだと思っていたので驚いたし悲しくなった。

運悪く責任感のない飼い主の元に行ってしまった動物たちは動物愛護センターに保護される。あにまあるに保護された動物たちは新しい家族にもらわれていく場合が多いが、そうではない場所もある。「動物を飼うには、お金と時間、責任が必要なんだ。」と係の人は言っていた。そのためもらい手の審査もあるという。そして「うちには猫が8匹いるけど、骨折した時は40万かかったよ。」と笑った。保護された猫をなでる姿は、本当に動物が好きなことが伝わる。

だけど、好きなだけではいけない。生き物を飼うということは、動物の命に責任を持つということ。責任を持つためにはお金も必要だということを軽い気持ちで動物を飼う人に知ってもらいたいと私は思う。

動物愛護センターから動物を譲渡してもらえばお金はかからない。でもペットショップの動物も動物愛護センターの動物も同じ「命」を持っていてその命に責任を持つというのは同じこと

だ。

私は動物を飼っていない。それは、まだひとりでは動物の命に責任を持ってないからだ。でも、自分で働くようになって動物の骨折に40万払えるくらいになったら猫を飼いたいと思う。動物を幸せにできる自信と実力がつくまで、私はペットを飼わない。この選択も動物の命を守ることにつながる。